とちぎで農業する人を募集します

就農準備校 とちぎ農業未来塾

申込受付期間

令和8(2026)年12月1日(火)～
令和9(2027)年1月29日(金)必着

令和9年度 研修生募集

あなたの農業がここから始まる

◆農業で夢をかなえたい人 ◆独立して農業を始めたい人 ◆農業を実践的に学びたい人



就農準備基礎研修

①木曜日コース 研修曜日：木曜日
②土曜日コース 研修曜日：土曜日
研修期間：4～1月(30日)
募集人員：各40名　受講料：15,000円
農業経営や栽培技術の基本的内容を中心とした講義、実習、現地視察等

就農準備専門研修Ⅰコース

研修曜日：月･水･金曜日　研修期間：4～3月(100日)
募集人員：60名　いちご：20名　施設野菜：15名　露地野菜：15名　果　樹：10名
受講料：50,000円

就農準備専門研修Ⅱコース(実践研修)

研修曜日：月･水･金曜日の専門研修Ⅰコースと、火･木曜日の指導農業者による現地実習
研修期間：4～3月(180日)
募集人員：Ⅰコースの範囲内で5名程度
受講料：90,000円
いちご･施設野菜･露地野菜･果樹の農業経営･栽培技術の専門的内容に関する講義、実習、現地視察 等







栃木県農業大学校

令和9年度研修生募集のご案内

Uターン、Iターンなどにより、栃木県内で農業経営を始めたいと考えている方が、円滑に就農できるよう、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを学べる研修の受講者を募集します。

受講要件

新たに栃木県内で本格的な農業経営を始めたいと考えている方。**(家庭菜園や趣味の農業志向者は対象外です。)**

受講申込の方法

◆受講申込みに必要な書類等

□**受講申込書：様式1**
□**就農計画書：様式2**

本案内に添付されている所定の申込書に記入の上、農業大学校未来塾担当に提出願います。
受講申込書は農業大学校のホームページ(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/)からダウンロードできます。

□**返信用封筒：2通（定形封筒長形3号に宛名・住所を記入し、必ず110円切手を貼付）**
※返信用封筒は、面談通知と受講決定通知に使用します。

◆提出先

〒321-3233　宇都宮市上籠谷町1145-1　栃木県農業大学校　未来塾担当

◆受付期間（郵送・持参）

令和8(2026)年12月1日(火)～令和9(2027)年1月29日(金)必着
(本校に直接持参する場合は、平日の9時～17時とし、土曜日・日曜日、祝日及び令和8(2026)年12月29日(火)～令和9(2027)年1月3日(日)を除く)　※ファクシミリ、Eメールでの受付はいたしません。

受講者の決定

受講者は、受講申込書等の関係書類、面談によって決定します。

◆関係書類により要件に合った方は、面談日程等を通知します。申込状況によっては、日程の変更もあります。

◆面 談 日：

就農準備基礎研修	木曜日コース	令和9(2027)年2月18日(木)
同上	土曜日コース	令和9(2027)年2月13日(土)
就農準備専門研修	Ⅰコース	令和9(2027)年2月16日(火)
同上	Ⅱコース（実践研修）	令和9(2027)年2月12日(金)

◆受講決定：令和9(2027)年3月上旬に本人宛てに郵送します。
なお、専門研修Ⅱコースについては、現地実習先が決定してから、3月末までに受講の可否を通知します。
※電話等による問い合わせには応じません。



コースの構成

研修コース		研修内容	研修期間（日数）	研修曜日	募集人員	受講料
1 就農準備基礎研修	①木曜日コース	農業経営や栽培技術の基本的内容を中心とした講義、実習、現地視察等	4～1月（30日）	木曜日	40名	15,000円
	②土曜日コース			土曜日	40名	
2 就農準備専門研修	Ⅰコース	いちご・施設野菜・露地野菜・果樹の農業経営・栽培技術の専門的内容に関する講義、実習、現	4～3月（100日）	月・水・金	60名 （いちご：20名 施設野菜：15名 露地野菜：15名 果樹：10名）	50,000円
	Ⅱコース（実践研修）		4～3月（180日）	月・水・金（Iコース共通）＋火・木（現地農家実習）	※Ⅱは、上記の範囲内で5名程度	90,000円

※研修時間は原則として9:00～16:00です。
※研修日の他に、圃場・作物管理のための登校日があります。
※就農準備基礎研修の木曜日コース、土曜日コースは同じ内容です。
どちらでも受講可能な場合は、受講者数に応じて調整します。
※複数コースの同時受講はできません。
※受講料の他、テキスト代として10,000円程度の費用が必要です。



カリキュラム

各コースとも講義と実習で構成され、
●作物を作るために必要な基礎的知識（土壌肥料、病害虫防除等）
●農業経営に必要な基礎的知識（農業簿記、経営管理、各種農業制度等）
●農作物を販売するために必要な基礎的知識（マーケティング、農業の6次産業化等）
について研修します。
また、就農準備専門研修は基礎的研修に加え、作物を限定した、より専門的な知識の習得、実習を行います。

新規就農者育成総合対策（就農準備資金）への対応

「専門研修Ⅱコース（実践研修）」受講者で、一定の要件を満たす方は、新規就農者育成総合対策（就農準備資金）の申請が可能です。なお、当該資金の交付を受けるためには、別途審査がありますので御留意ください。詳細は、個別に御相談ください。

新規就農者育成総合対策とは、次世代を担う農業者を目指す人（就農予定時の年齢が原則50歳未満）に、就農前の研修を支援する資金（就農準備資金）と就農直後の経営確立を支援する資金（経営開始資金）を交付する国の事業です。この内、就農準備資金は、栃木県が認める研修機関で研修を行う就農希望者で、一定の要件を満たす場合、最長2年間、原則、最大165万円／年を交付するものです。

※事業内容は令和8年度のものであり、今後、事業内容等が変更となる可能性があります。

とちぎ農業未来塾修了生からのメッセージ

専門研修Ⅰコース・施設野菜
（R6年度修了）

相澤庸介さん



私は、鹿沼市の新規就農支援制度を利用し、にら農家での実践研修と並行して、未来塾の施設野菜コースを受講しました。

若い頃はあまり意識しませんでしたが、年齢を重ねるにつれ「食」への関心が強くなり、自ら作る側になりたいと思うようになりました。しかし、農業は全くの未経験で知識もゼロでした。そこで鹿沼市の制度を活用しようとしたものの、就農時に49歳以下という年齢制限があり、今年がラストチャンスだと一念発起して飛び込みました。

未来塾での日々は、にらだけでなくトマトやアスパラガスの栽培も幅広く学ぶことができ、素人の私には非常に有意義な時間でした。また、他の地域でにらを始める予定の方や、違う作物を育てる農家仲間に出会えたことは、大きな刺激となり私の財産になっています。

今後の目標は、自分の農園の規模を拡大することよりも、鹿沼市でにらを始める人を増やしていくことです。新規就農者を集めて育成し、鹿沼市のにらを「日本一」にするのが私の目標です。

農業未経験の方でも、未来塾には確かな学びと素晴らしい出会いがあります。皆さんもぜひ、ここから新しい一歩を踏み出してみてください。

専門研修Ⅰコース・露地野菜
（R7年度修了）

大木安紀さん



私の家は、水稲・麦・大豆の生産を行う専業農家です。しかし、私自身は県外で就職し2015年に栃木県内にUターンしていましたが、継続して一般企業に会社員として勤務しており週末に農業を手伝う程度でした。

就農を決意した際に学生時代を含め農業に関して体系的に学んだことが無かったこともあり、農業について学んでみたいとの思いを強く持ちました。その思いを実現するため「とちぎ農業未来塾」の受講を決めました。とちぎ農業未来塾では施肥設計や栽培計画など農業で普遍的に必要となる基礎を習得することができました。また、通常では視察できない先進企業等を視察することができ最新の農業に関する知識も得ることができました。さらにとちぎ農業未来塾終了後も近況の報告や相談ができるかけがえのない仲間を得ることができ大きな人生の財産となりました。

とちぎ農業未来塾で得られた知見をベースに作目の拡大や収益の向上を目指し持続可能な農業経営を実現したいと考えております。

専門研修Ⅰコース・果樹
（R7年度修了）

髙橋友徳さん



私は、会社員の頃から果樹栽培に関心があり、休日には家族と梨やぶどうなどの農作業体験会に参加していました。その中で芳賀町の梨園継承プログラムに出会い、会社を退職して梨農家として就農することを決めました。プログラムでは未来塾（月・水・金）と梨農家（火・木）での1年間の研修が必要なため、未来塾の果樹専門コースに入りました。

未来塾では梨の栽培管理を座学と実習の両方で学べ、知識と作業が結び付きました。中でも病害虫防除は、園地で黒星病が多発したこともあり、適期防除の大切さを身をもって実感しました（笑）。先進農家の視察研修も未来塾ならではで、今後の経営方針を考えるうえで大変参考になりました。また、同期の仲間や講師の先生方に気軽に相談できる関係ができたことも受講して良かった点の一つです。

現在は、継承した梨園で幸水・豊水・甘太などを栽培しています。就農1年目で戸惑うことも多々ありましたが、未来塾での学びと仲間の支えのおかげで乗り切ることができました。今後は芳賀町が目指す「にっこり日本一の町」づくりに貢献できるよう、にっこりをたくさん植えて、しっかり稼げる農家を目指して励んでいきます!!

専門研修Ⅰコース・いちご
（R7年度修了）

宮下小鉄さん



私は、30歳までに新しいことに挑戦したいと思い、鹿沼市の研修制度を受け、その一環として未来塾に通うことになりました。

未来塾では、いちごの育て方の基礎を学ぶことができたのはもちろんのこと、複数の方法でいちごを育てることで、それぞれの生育の違いを見ることができ、とても勉強になりました。実際にいちごの生育を見ながら学ぶことで、資料や話を聞くだけでは分からないことも知ることができました。

また、未来塾に通ったことで、同じ志を持つ仲間と出会うことができたのも、とても良かったと感じています。栽培について情報共有したり、困ったときにはお互いに助け合ったりすることができる仲間ができたことは、これからいちごを育てていく上でも大きな支えになると思います。

未来塾に通っているときは、理解できないことや難しく感じることも多くありました。しかし、自分でいちごを育て始めてみると、「あのとき教えてもらったことは、こういうことだったのか」と思う場面があり、そのたびに未来塾で学んだことが少しずつつながっていくのを感じました。

今回の未来塾では、いちごの栽培に関する知識だけでなく、同じ目標を持つ仲間とのつながりや、実際に自分で経験することの大切さも学ぶことができました。これからも未来塾で学んだことを活かしながら、経験を積み重ね良いちごが作れるように頑張りたいです。

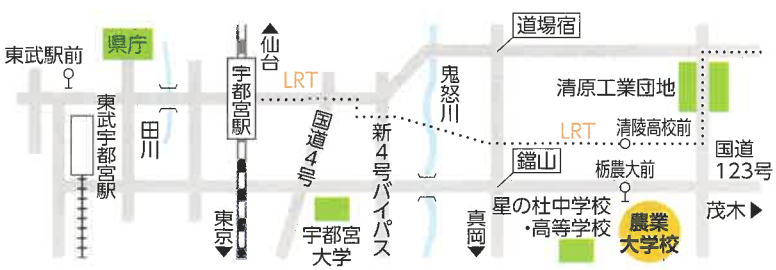
問い合わせ先

栃木県農業大学校　未来塾担当

〒321-3233　宇都宮市上籠谷町1145-1

電話　028-667-4944

https://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/



様式１

令和9年度就農準備校「とちぎ農業未来塾」受講申込書

令和　　年　　月　　日

顔写真を貼付
（4 × 3cm 程度）

栃木県農業大学校長　様

ふりがな
氏　名

私は「とちぎ農業未来塾」の研修を受講したいので、関係書類を添えて申込みます。

1　受講コース及び連絡先等

希望コース【 】の中から一つ○で囲む	・就農準備基礎研修	【 木曜日コース ・ 土曜日コース ・ どちらでも可 】	
	・就農準備専門研修	Ⅰコース	【 いちご ・ 施設野菜 ・ 露地野菜 ・ 果樹 】
		Ⅱコース（実践研修）	【 いちご ・ 施設野菜 ・ 露地野菜 ・ 果樹 】
住所等	郵便番号	－	
	住所（建物名・番号まで記載）	県　　市・町	
	電話番号		
	携帯電話番号		
	メールアドレス	@	
生年月日	西暦　　年　　月　　日（　　歳）	職業	現在（申込時）
最終学歴	□（農業系学校の卒業者等は☑）		令和９年４月（予定）

※就農準備基礎研修は希望するコースを○で囲んでください。どちらでも受講可能な場合は、受講者数に応じて調整します。
※就農準備専門研修はⅠ又は、Ⅱおよび専攻名を○で囲んでください。
※就農準備専門研修Ⅱコース（実践研修）受講者のうち、新規就農者育成総合対策（就農準備資金）の要件を満たしている者は同事業への申請が可能ですが、事業の採択には別途審査があります。なお、同事業については国の事業のため、今後、事業内容等が変更となる可能性があります。

2　受講を希望する理由

3　就農に対する家族の意向
① 同意を得ている　② 同意を得ていない

4　農業経験
① 全くない　② 家庭菜園程度の経験あり　③ 兼業農家で時々実践　④ 専業農家で実践
⑤ 農業研修の経験あり（研修名：　　期間：　　）

5　その他（健康上不安なことなどがあったら御記入願います。）

とちぎ農業未来塾の研修及び就農支援に係る「個人情報の取扱い」について

栃木県農業大学校は、受講申込書及び就農計画書の内容については、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）等に基づき適正に管理するとともに、研修及び就農支援に資するため必要に応じて市町村及び関係機関等へ提供する場合があります。

上記「個人情報の取扱い」に同意します。　　氏名

様式２

就　農　計　画　書

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1　就農予定時期　　　　　年　　　月　（※既に就農している者は就農した年）

2　就農予定地（又は希望地）　＿＿＿＿＿＿＿市・町

3　家族構成　（※同居および農業経営に参画する者）
①続柄　　　（年齢　　）、②続柄　　　（年齢　　）、③続柄　　　（年齢　　）
④続柄　　　（年齢　　）、⑤続柄　　　（年齢　　）、⑥続柄　　　（年齢　　）

4　農業経営等の構想（取組作物、販売等の考え方など）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

経営の規模等

区分	主な作物	面積（㎡）	目標所得金額（万円）	労働力
現 状				本人以外＿＿＿名 （具体的な続柄等）
	計			
就農時				本人以外＿＿＿名 （具体的な続柄等）
	計			
就　農 ５年後				本人以外＿＿＿名 （具体的な続柄等）
	計			

5　農地・施設等の取得状況

区分	取得済	今後取得見込み・希望	方法
農地	・所在地（　　　　市・町） ・面　積　水　田（　　　㎡） 畑　　（　　　㎡） その他（　　　㎡）	・所在地（　　　　市・町） ・面　積　水　田（　　　㎡） 畑　　（　　　㎡） その他（　　　㎡）	・借　地 ・購　入　自己資金 各種融資 ・その他
施設 機械	・ハウス等（　　　㎡） ・機械類　（　　　）	・ハウス等（　　　㎡） ・機械類　（　　　）	・借りる ・購　入　自己資金 各種融資 ・その他

＊ 10a（1,000㎡）≒１反

6　当面の生活資金の確保（※農業収入を得られるまでの数年間の生活資金）
有　・　無